

# 2020年3月期 第2四半期決算概要

加賀電子株式会社  
常務取締役 川村 英治

管理本部長の川村でございます。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

## 2020年3月期第2四半期 サマリー

### 2020年3月期 第2四半期実績

- 売上高は、富士通エレクトロニクスのグループ会社化が寄与し、倍増。
- 営業利益～当期純利益まで全て増益。営業利益、経常利益は最高益更新。
- 企業買収効果および堅調なEMSビジネスが下支え、6ヶ月累計、直近3ヶ月とも「増収増益」の着地。通期予想に対して順調に折り返す。

### 電子部品事業の 概況

- EMSビジネスは、医療機器、車載関連向けを中心に増収。
- 部品販売ビジネスは、LED照明などの民生向けが順調。富士通エレクトロニクスが加わり、携帯電話、車載向けなど新たな収益がグループ業績に寄与。

### 情報機器事業の 概況

- パソコン販売は、個人および学校・教育機関向けが牽引し、増収。
- LED設置ビジネスは、大口顧客の置換需要が一服。住宅向け家電販売は、客先での納期調整の影響受け、減収。

### 通期見通し

- 先行き不透明な経営環境を慎重に見極めつつ、2Qの順調な進捗を踏まえても、通期業績見通しは期初予想から見直さず変更なし。
- 業績予想の前提となる為替レートも変更せず。

2020年3月期の第2四半期の決算概要について、私からご説明申し上げます。お手元の資料3ページ、サマリーになっております。この第2四半期の実績ですが売上高は富士通エレクトロニクスのグループ会社化が寄与し、倍増となりました。営業利益から当期純利益まではすべて増益となり、営業利益、経常利益は最高益更新となっております。企業買収効果及び堅調なEMSビジネスが下支えして、6カ月累計並びに直近3カ月とも増収増益の着地となり、通期予想に対しても順調に折り返しております。

電子部品事業の概況でございますが、EMSビジネスにつきましては医療機器、車載関連向けを中心に増収となりました。部品販売ビジネスはLED照明などの民生向けが順調に推移し、また富士通エレクトロニクスが加わったことで携帯電話、車載向けなど、新たな収益がグループの業績に寄与しております。

次に、情報機器事業の概況ですが、パソコン販売は個人及び学校、教育機関向けが牽引し、増収となりましたが、LED設置ビジネスは大口顧客の置き換え需要が一服、住宅向け家電販売は客先での納期調整の影響を受け、減収となりました。

通期の見通しにつきましては、先行き不透明な経営環境を慎重に見極めつつ、第2四半期の順調な進捗を踏まえても、期初予想から見直しをせずに変更しておりません。また業績予想の前提となる為替レートも変更せず、110円としております。

## 2020年3月期第2四半期 業績ハイライト（6ヶ月累計）

(単位：百万円)

	2019/3期	2020/3期	前年同期比	通期予想	進捗率
	Q2実績	Q2実績			
売上高	115,383	230,630	99.9%	430,000	53.6%
売上総利益	16,023	23,771	48.4%	46,500	51.1%
同利益率 (%)	13.9%	10.3%	▲3.6pt		
販売費及び一般管理費	12,251	18,531	51.3%	39,500	46.9%
営業利益	3,772	5,239	38.9%	7,000	74.9%
経常利益	4,049	5,546	37.0%	7,000	79.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,750	3,502	27.4%	5,000	70.1%
EPS（1株当たり四半期純利益）	100.25	127.62	27.37	182.17	70.1%
為替レート 米ドル	110.26	108.63	1.63	110.00	

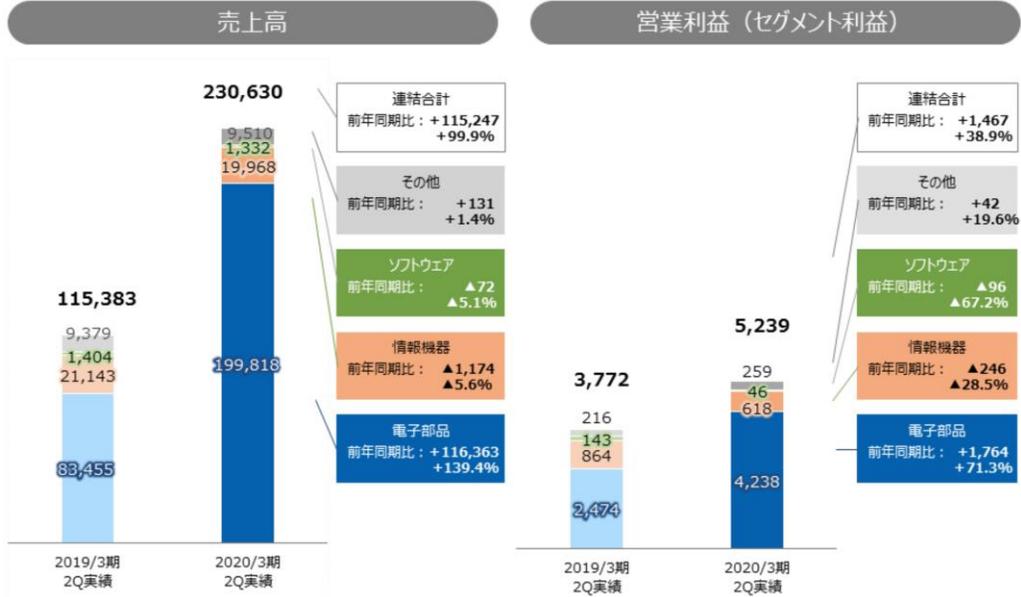
 加賀電子株式会社

次に、業績ハイライトになります。第2四半期累計期間の実績についてご説明申し上げます。売上高2,306億3,000万円となりまして、前年同期比99.9%増と倍増いたしました。通期予想は4,300億としておりますので、その進捗率は53.6%となります。売上総利益は237億7,100万となり、利益率は10.3%、前年同期比48.4%増となっております。通期予想は465億円としておりますので、進捗率としては51.1%となります。総利益率につきましては、前年同期が13.9%でしたので、3.6ポイントほど低下しておりますが、こちらは当社に比べ利益率の低い富士通エレクトロニクスをグループ会社化したことによるものです。販売費及び一般管理費は185億3,100万となり、前年比51.3%増。通期予想は395億としておりますので、進捗率は46.9%となっております。営業利益は52億3,900万となり、前年比38.9%増。通期予想は70億で据え置いておりますので、進捗率74.9%。経常利益は55億4600万となり、37%増。通期予想は70億で据え置いておりますので、進捗率は79.2%となります。最後に、親会社株主に帰属する四半期純利益は、35億200万となり、前年比27.4%増。通期予想は50億で据え置いておりますので、進捗率は70.1%となります。

以上の結果EPSは127円62銭となり、前期に比べると27.3%増となっております。為替レートは米ドルの実績値で、108円63銭となり、予定よりは1円63銭、円高に振れております。

## 2020年3月期第2四半期業績 事業部門別業績（6ヶ月累計）

（単位：百万円）



加賀電子株式会社

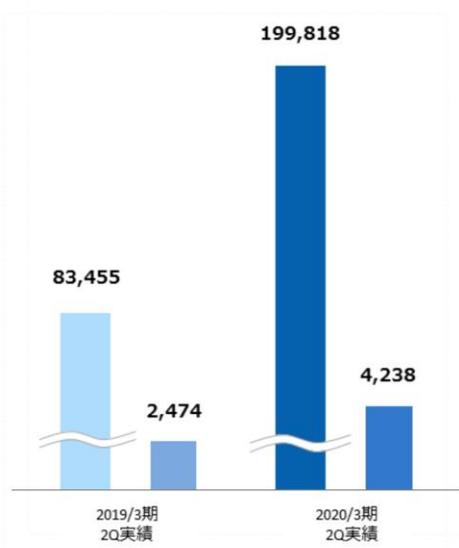
注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

次に5ページ、第2四半期事業部門別の実績でございます。6カ月の累計期間になりますが、全体の売上高2,306億3,000万円の中で、電子部品事業が1,991億1,800万となり、全体の86.6%を占めております。続いて情報機器事業、199億6,800万円となり、こちらは8.6%。それからソフトウェア事業が13億3,200万円となり、こちらは1%弱になります。その他事業が95億1,000万円となり、4.1%のシェアを占めております。営業利益は52億3,900万円のうち、電子部品事業が42億3,800万円となり、全体の80.9%。情報機器事業が6億1,800万円となり、11.8%。ソフトウェア事業が4,600万円と0.9%。その他事業が2億5,900万で4.9%というシェア割となっております。

## 2020年3月期第2四半期業績：電子部品事業（6ヶ月累計）

(単位：百万円)

### 売上高・セグメント利益



### 前年同期比

- 売上高 ▶ +116,363百万円 139.4%増
- セグメント利益 ▶ +1,764百万円 71.3%増

EMSビジネスは、医療機器、車載関連向けを中心に順調

部品販売ビジネスは、LED照明など民生向けに加え、富士通エレクトロニクスの携帯電話、車載向け収益が新たに寄与



次のページは電子部品事業の6カ月累計の実績値になります。わかりやすく売上高と利益を比較しており、売上高は前年同期比1,163億6,300万円、139.4%増となっております。利益は、17億6,400万円、71.3%増となっております。こちらの業況といたしましては、EMSビジネスが先ほどサマリーで申し上げたとおり、医療機器、車載関連向けを中心に順調に推移したこと、それから部品販売ビジネスにつきましてはLED照明など民生向けに加えて、富士エレクトロニクスにおいて、携帯電話、車載向けが、収益に新たに寄与したことが主な要因となります。

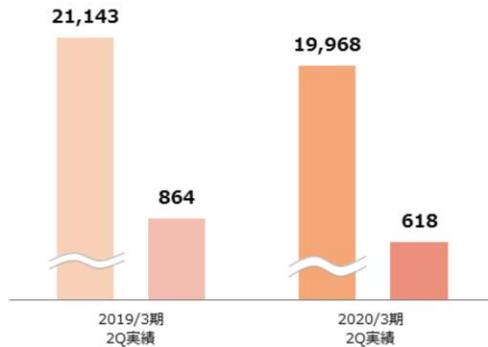
## 2020年3月期第2四半期業績：情報機器事業（6ヶ月累計）

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

前年同期比

- 売上高 ▶ ▲1,174百万円 5.6%減
- セグメント利益 ▶ ▲246百万円 28.5%減



個人、学校・教育機関向けPC・PC周辺機器  
販売が好調

商業施設向けLED設置ビジネスは置き換え  
需要が一服、住宅向け家電販売ビジネスは減収

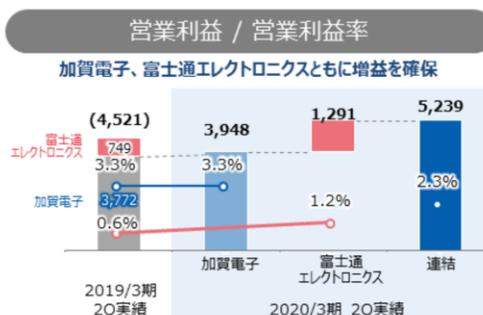
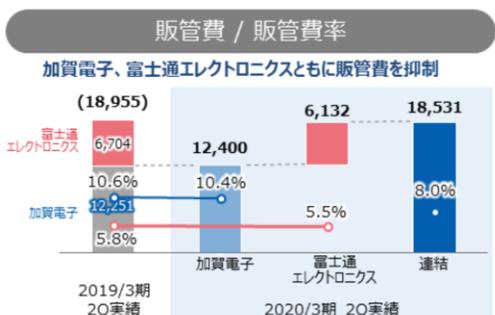
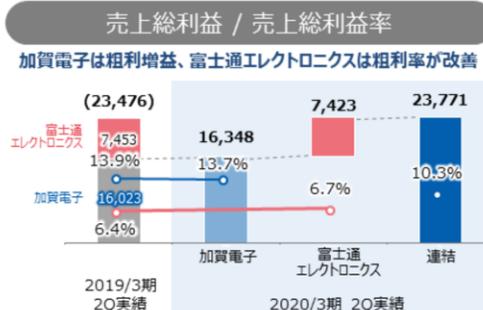
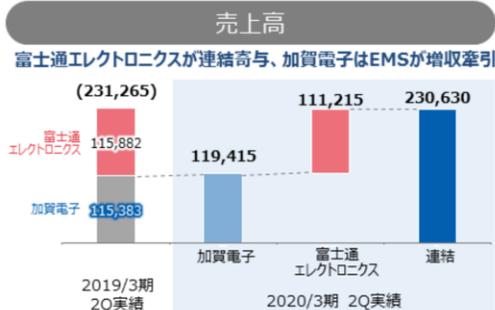


 加賀電子株式会社

次にページは情報機器事業の6カ月累計の実績値になります。売上高は199億6,800万円、営業利益6億1,800万円ですが、売上高は11億7,400万の減少となり、前期比5.6%減。利益は2億4,600万円の減益で、前期比28.5%の減少となっております。こちらは個人、学校、教育機関向けのPC並びに周辺機器の販売が好調でしたが、商業施設向けLED設置ビジネスの置き換え需要が一服したことで、住宅向け家電販売ビジネスが減収であったことが、減収減益の主な要因となっております。

## 2020年3月期第2四半期 富士通エレクトロニクス グループ会社化の影響

※単位：百万円、( )内は単純合算、富士通エレクトロニクスの前期実績は非開示のため参考値

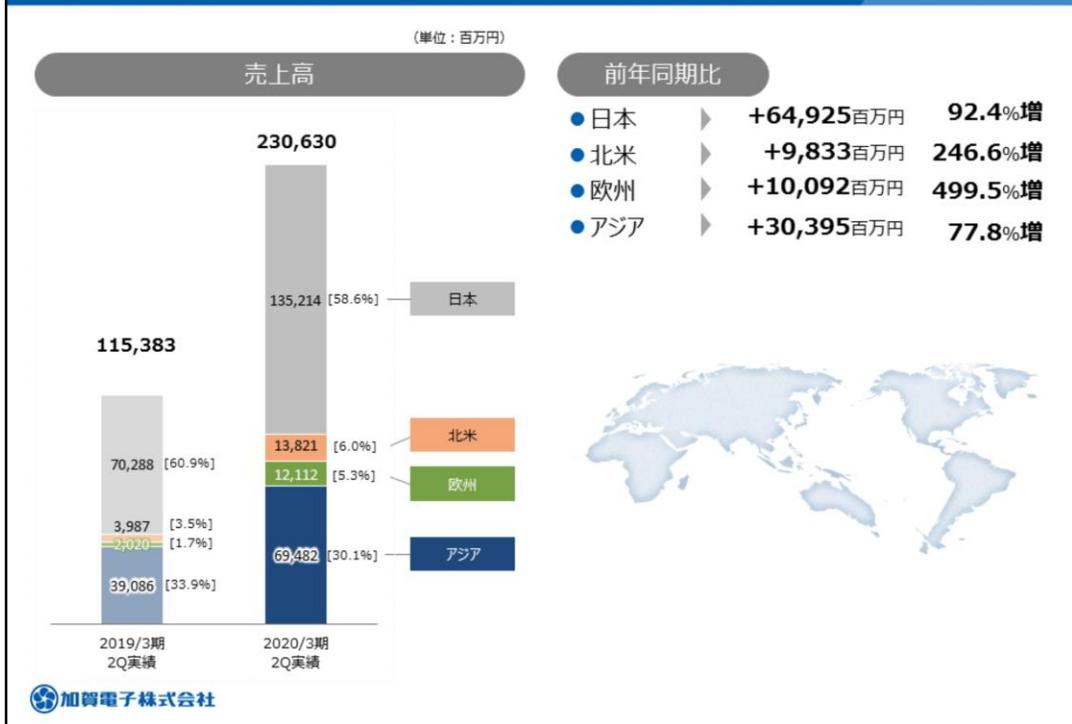


加賀電子株式会社

(注) 売上総利益および営業利益については、2社間での連結調整前の数値を記載しております。  
なお、連結調整額は売上総利益は5百万円、営業利益は1百万円です。

次のページは、今回の第2四半期の実績値について富士通エレクトロニクスの業績が今期から、連結されたことによって、前年同期で比較すると大きくずれてしまいますので、富士通エレクトロニクスの数字を抜き出し、従来の加賀電子グループの実績値と、富士通エレクトロニクスの実績値を、それぞれ分解したグラフになります。売上高は全体で2,306億3,000万円でしたが、このうち富士エレクトロニクス分が、1,112億1,500万円、グラフの赤い部分です。差し引きしたものが加賀電子の売上高、1,194億1,500万円となっております。従来の加賀電子グループは前年同期に比べますと、40億3,200万円の増収でした。その右のグラフは、売上総利益になります。こちらは全体で237億7,100万円でしたが、富士通エレクトロニクス分は74億2,300万円でした。加賀電子は163億4,800万円となり、こちらは前期が160億2,300万円でしたので、3億2,500万円の増益となります。利益率は全体で10.3%となりましたが、富士通エレクトロニクスが6.7%、加賀電子が13.7%という分解になります。加賀電子は前期が13.9%でしたので、ほぼ横ばいというところですよ。続いて販管費は全体で185億3,100万円でした。富士通エレクトロニクス分が、61億3,200万円となり、加賀電子分は124億円となっております。加賀電子は前年同期が122億5,100万円でしたので、1億4,900万の増加となっております。最後に、営業利益です。全体で52億3,900万円となり、12億9,100万円が富士通エレクトロニクス分、加賀電子分は39億4,800万円となります。加賀電子の前年同期は37億7,200万円でしたので、加賀電子分は1億7,600万円の増加となります。なお、売上総利益率ですが、今年の1月から3月、前年の第4四半期から、富士通エレクトロニクスがグループ化されましたが、第4四半期の実績値は6.0%、次の第1四半期が6.3%、当第2四半期が7.0%となり、第2四半期累計では、6.7%という推移になっております。

## 2020年3月期第2四半期業績：地域別売上高（6ヶ月累計）



次のページは、第2四半期累計期間の地域別売上高の分解になります。2,306億のうち、日本での売上高が1,352億1,400万円となり全体の58.6%のシェア、それから北米が138億2,100万円となり6.0%、欧州が121億1,200万円と5.3%、アジアが694億8,200万円となり、30.1%という分解になっております。前年同期比につきましては、この右側に記載のとおりでございます。

## 2020年3月期第2四半期 業績ハイライト（直近3ヶ月）

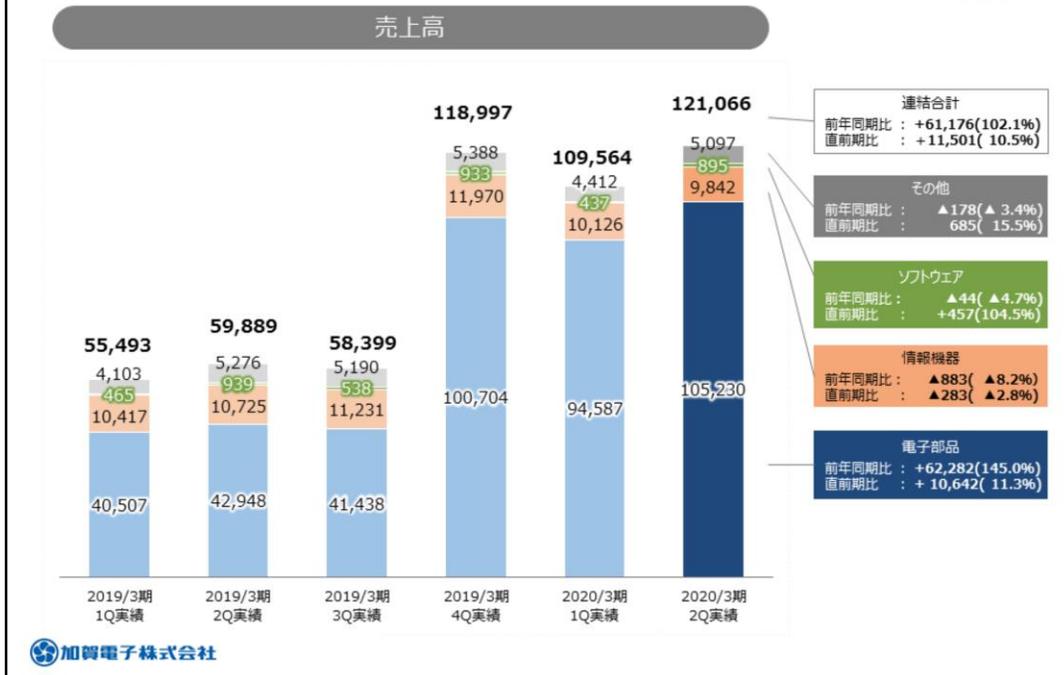
	2019/3期		2020/3期		(単位：百万円)	
	Q2実績	Q1実績	Q2実績	前年同期比	直前期比	
<b>売上高</b>	59,889	109,564	121,066	102.1%	10.5%	
売上総利益	8,381	11,062	12,708	51.6%	14.9%	
同利益率 (%)	14.0%	10.1%	10.5%	▲3.5pt	0.4pt	
販売費及び一般管理費	6,098	9,212	9,319	52.8%	1.2%	
<b>営業利益</b>	2,282	1,850	3,389	48.5%	83.1%	
<b>経常利益</b>	2,369	2,045	3,500	47.7%	71.1%	
<b>親会社株主に帰属する 四半期純利益</b>	1,601	1,350	2,152	34.4%	59.4%	
EPS（1株当たり四半期純利益）	58.38	49.20	78.42	34.3%	59.4%	
為替レート 米ドル	111.46	109.90	107.35	▲ 4.11	▲ 2.55	

 加賀電子株式会社

次は第2四半期の業績ハイライトになります。こちらは3カ月の分解になります。売上高が、1,210億6,600万円となり、直前の第1四半期に比べると10.5%の増収となっております。売上総利益は127億800万円となりまして、14.9%増。次に販管費は93億1,900万円で、1.2%増、営業利益は33億8900万円で、83.1%増、経常利益は35億円となり、71.1%増、親会社株主に帰属する四半期純利益21億5200万円となり、59.4%増という実績となりました。第2四半期、非常に堅調だったということがうかがえると思います。また、為替レートにつきましては、第1四半期が109円90銭だったものが、107円35銭で、米ドルについては、四半期ごとでは円高傾向で推移しております。

## 2020年3月期第2四半期 セグメント別業績①（売上高）

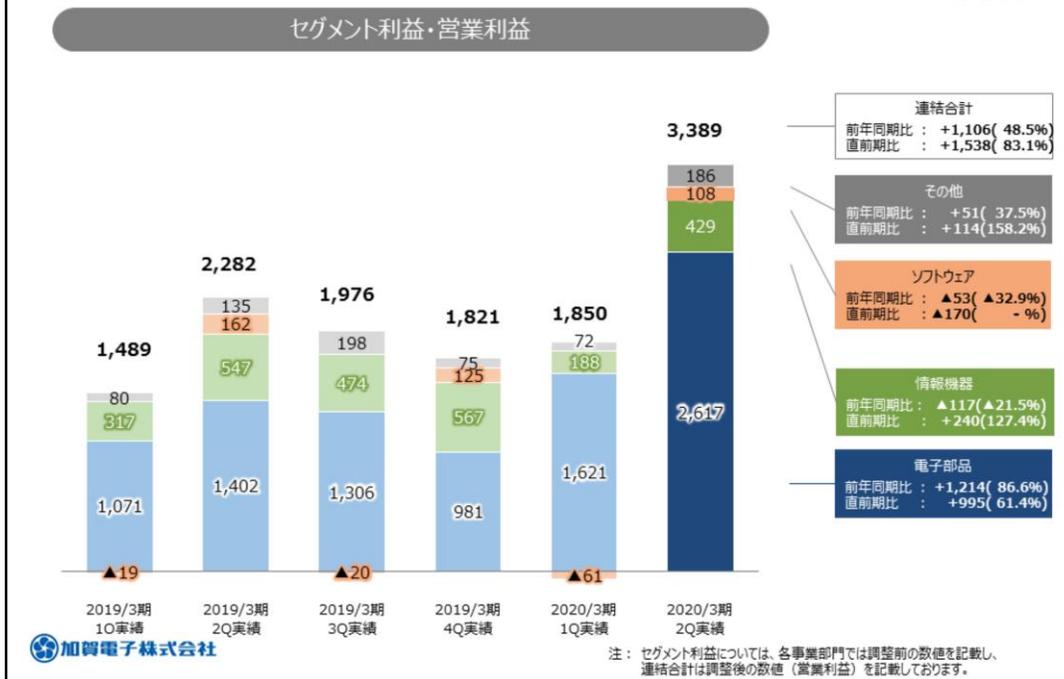
（単位：百万円）



次のページは第2四半期のセグメント別の業績になります。売上高ですが、こちら右側の3本のグラフご覧いただくと、一番右側の一番濃い青いグラフが、当第2四半期の実績値です。それからその左隣が、第1四半期の3カ月実績値。それからまた、右から3番目のグラフが、この1月から3月期、前年の第4四半期になります。3つの四半期を並べてみますと、売上高は第1四半期がやや落ち込みましたが、第2四半期は前第4四半期より上回っております。また、電子部品事業がほとんどのシェアを占めており、そのシェア割合はほぼ変わらずという内容となっております。

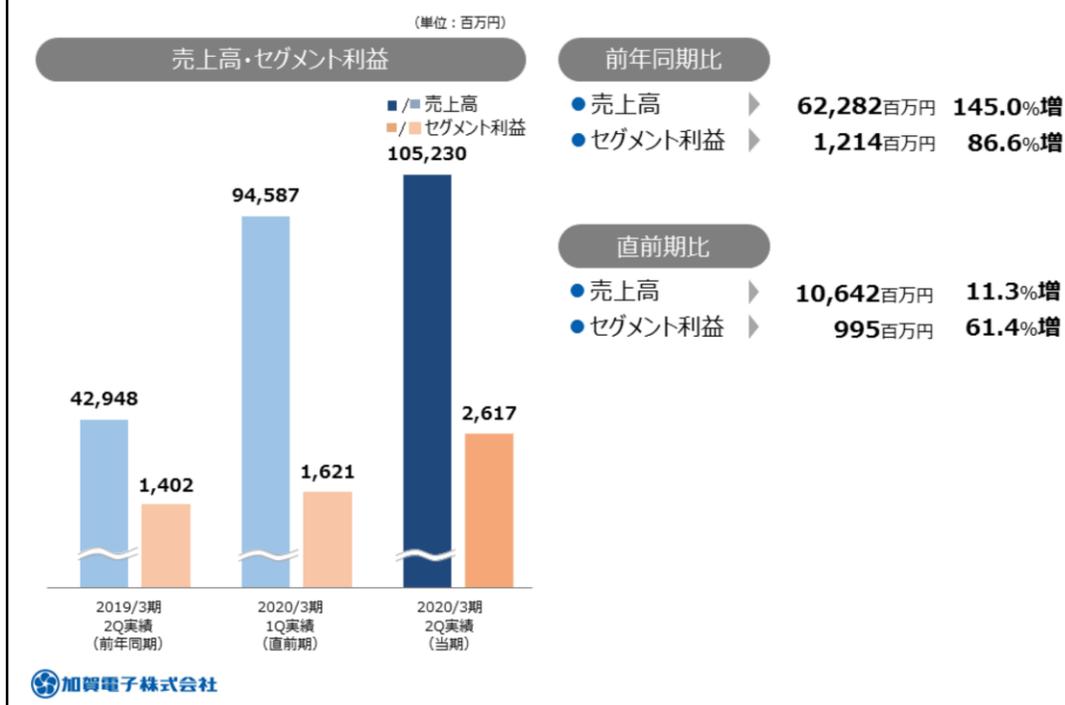
## 2020年3月期第2四半期 セグメント別業績② (セグメント利益・営業利益)

(単位：百万円)



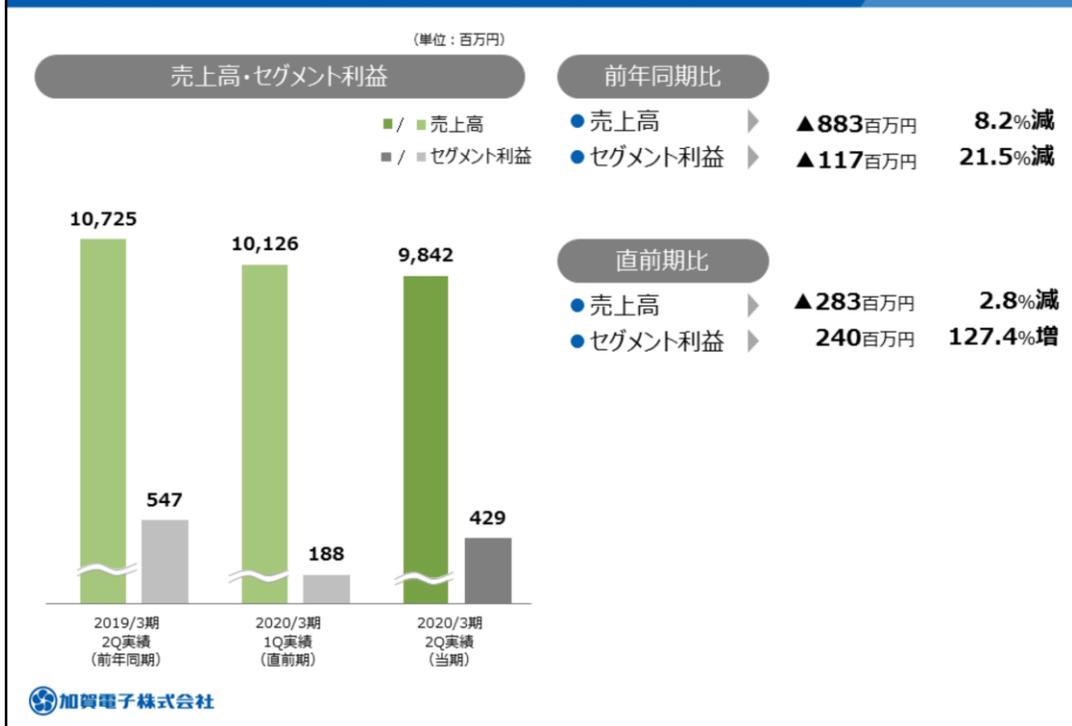
次のページ、は営業利益になりまして、一番右側から当第2四半期、直前期の第1四半期、それから前期第4四半期という内容になっております。こちらご覧いただくと、この第2四半期が非常に増益だったということがご理解いただけると思います。

## 2020年3月期第2四半期業績：電子部品事業（直近3ヶ月）



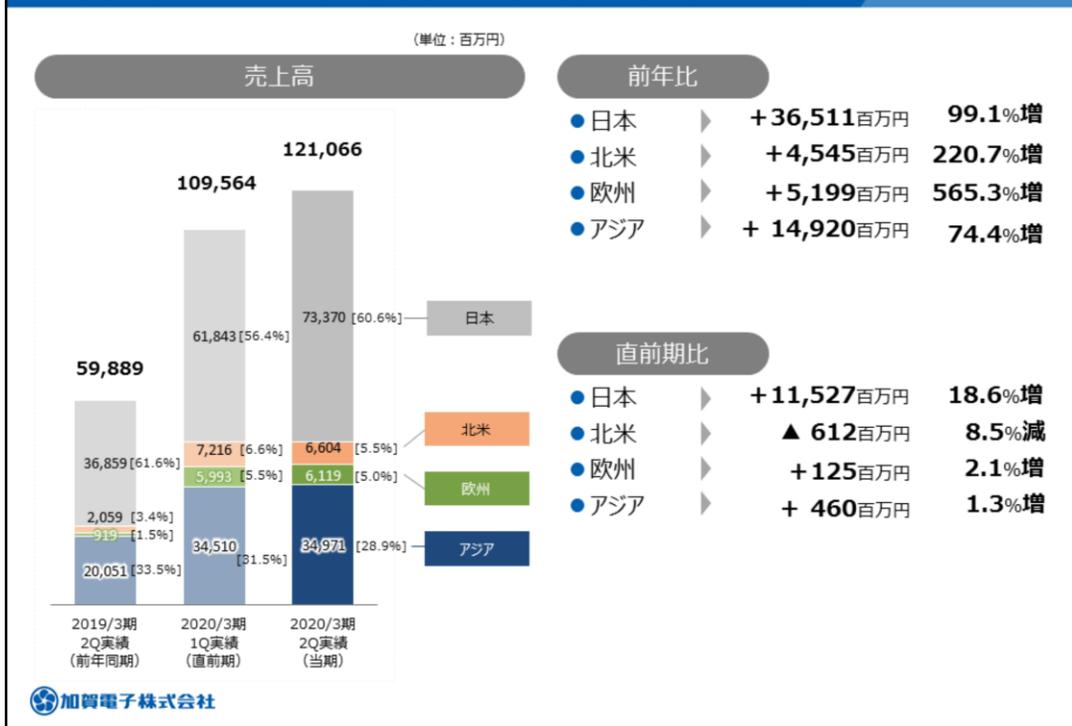
次のページは直近3カ月の電子部品事業の売上高と利益になります。売上高は、1,052億3,000万円となり、直前期に比べ106億4,200万円、11.3%増となっております。セグメント利益は26億1,700万円となり、9億9,500万円、61.4%増となっております。

## 2020年3月期第2四半期業績：情報機器事業（直近3ヶ月）



次のページは情報機器事業の直近3カ月の売上高、利益の推移となります。第2四半期は98億4,200万円の売上高で、営業利益が4億2,900万円となりました。残念ながら売上高は、直前期に比べると2億8,300万円の減収となり、2.8%減。利益は2億4,000万円、こちらは増益となり、127.4%増となりました。

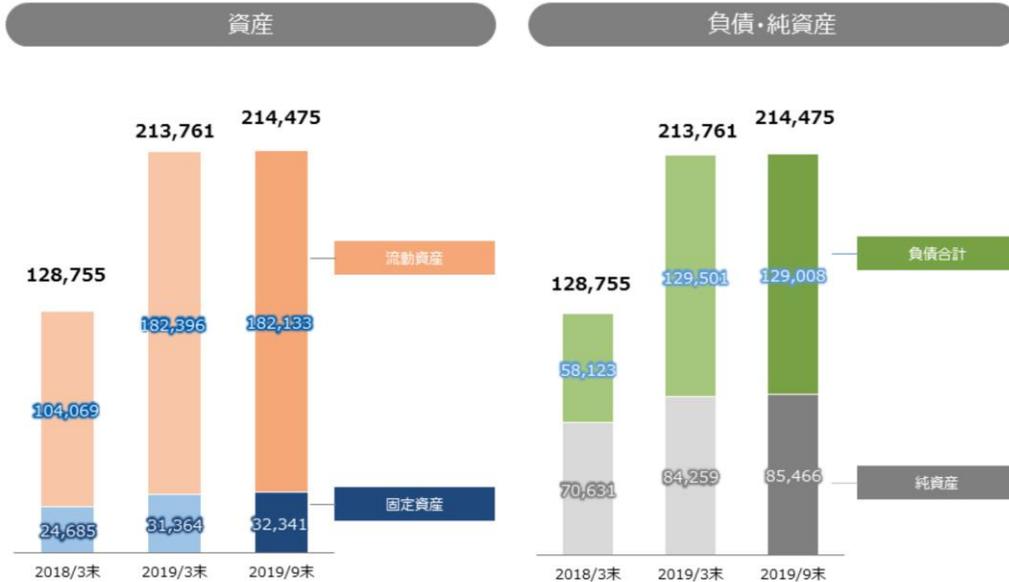
## 2020年3月期第2四半期業績：地域別売上高（直近3ヶ月）



続いて、地域別の直近3カ月の実績値になります。この第2四半期の売上高が1,210億6,600万円のうち、日本が60.6%、直前期比で比較すると115億2,700万円の増加、18.6%増となります。北米が66億400万となり、6億1,200万円の減収で、8.5%減。欧州が61億1,900万円となり、1億2,500万の増加、2.1%増です。アジアは349億7,100万円となり、4億6,000万の増加、1.3%増となりました。業績につきましては以上となります。

## 貸借対照表主要項目

(単位：百万円)

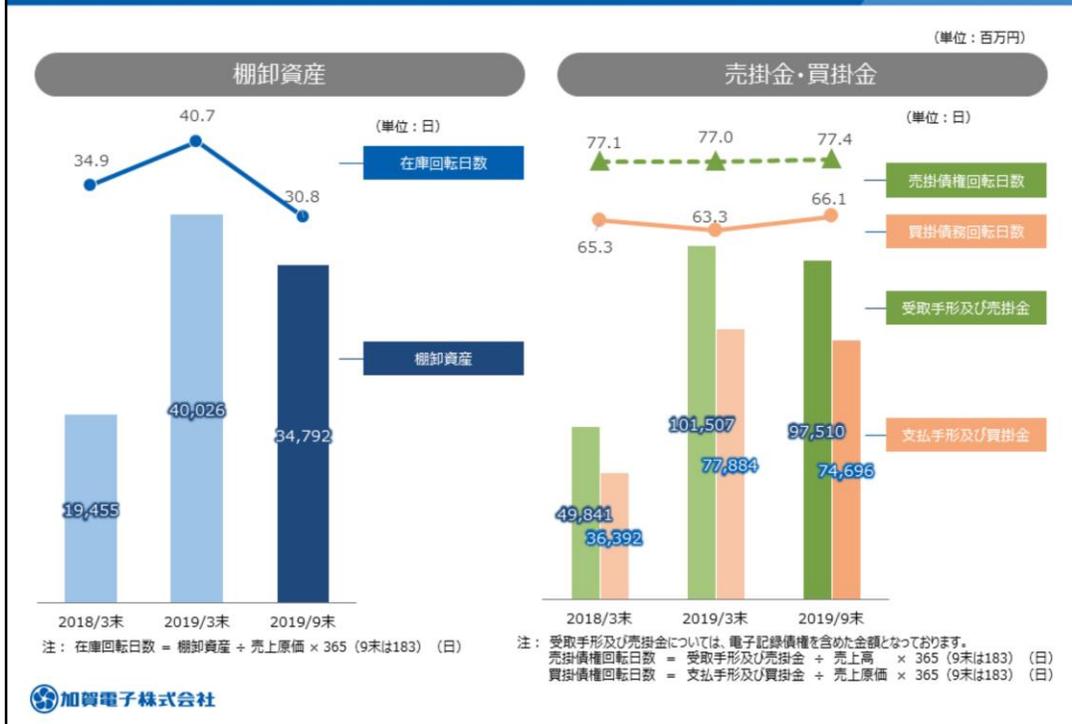


注：『税効果会計に係る会計基準』の一部改正（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年3月期以降の指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

加賀電子株式会社

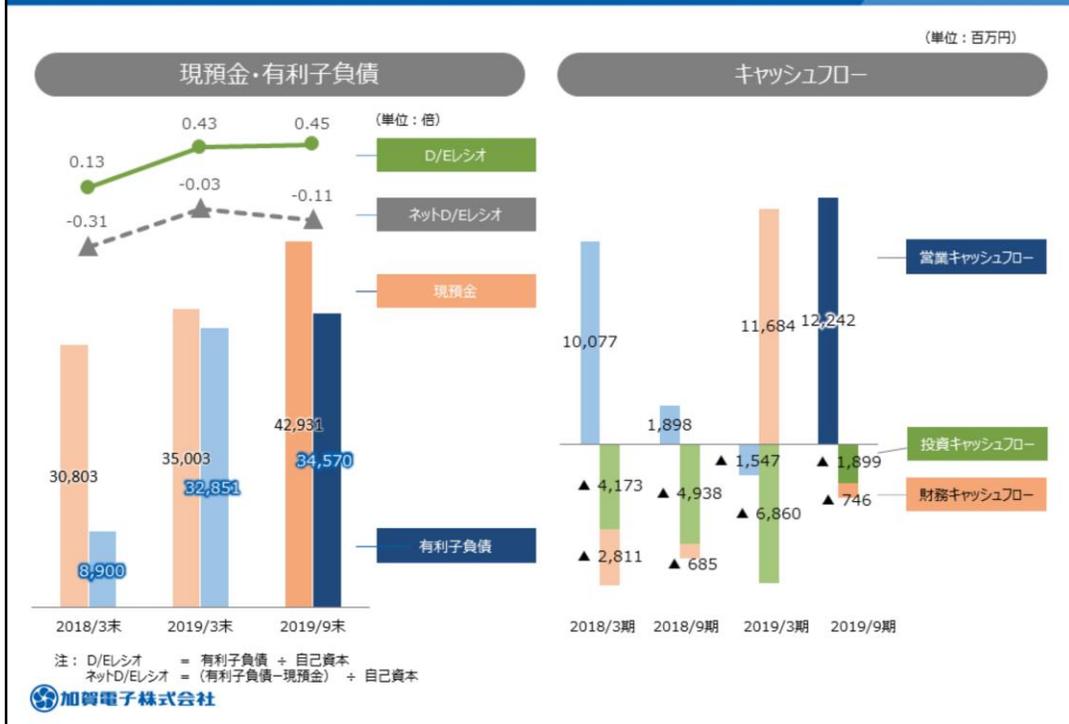
続いて、貸借対照表の主要科目についてご説明申し上げます。まず資産の部ですが、第2四半期末の総資産は2,144億7,500万円となり、3月末に比べますと7億1,400万円の増加となりました。流動資産は1,821億3,300万円となり、2億6300万円の減少。固定資産は323億4,100万円となり、9億7,700万円の増加となっております。固定資産は、IFRS16号の規定により、リース資産のうちオペレーティングリースを帳簿に計上するという会計基準が今期から導入されておりますので、これによる増加が主なものとご理解いただければと思います。続いて負債と純資産ですが、負債合計は1,290億800万円となり、4億9,300万円の減少。純資産には、854億6,600万円となり、12億700万の増加となっております。

## 貸借対照表主要項目



続きまして、次のページは棚卸資産です。9月末の棚卸資産は347億9,200万円となり、3月末に比べると52億3,400万円減少しております。在庫回転日数は30.8日となり、3月に比べると10日ほどの減少。売掛金の残高は975億1,000万円となり、39億9,700万円の減少。買掛金は746億9,600万円となり、31億8,800万円の減少となっております。それぞれの回転日数については、売掛金は77.4日、買掛金は66.1日となっております。以上から、棚卸資産が減り、売掛債権が買掛債権よりも多く減少しておりますので、現金収入が増えたのご理解いただけたと思います。

# 現預金・有利子負債/キャッシュフロー

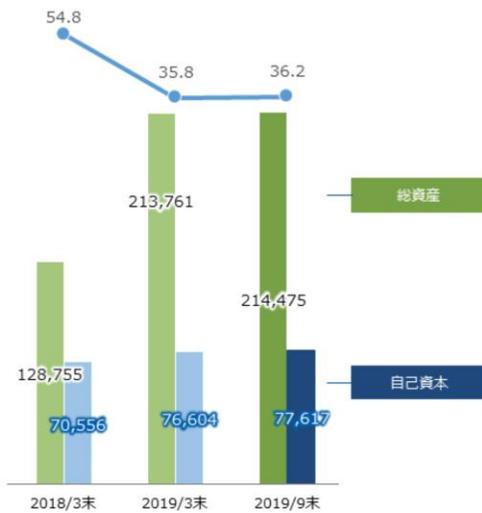


次に現預金と有利子負債、キャッシュフローです。現預金残高は429億3,100万円となり、この3月末と比べると、79億2,800万円増加しております。有利子負債は、345億7,000万円となり、17億1,900万円の増加となっております。D/Eレシオは0.45倍、ネットD/Eレシオはマイナス0.11倍ということで、現預金が借入を上回っています。キャッシュフローにつきましては、営業キャッシュフローが122億4,200万円の獲得でした。こちらは純利益の計上と、在庫削減によるものが主な要因です。それから投資キャッシュフローは、18億9,900万円の使用となり、こちらは有形固定資産の獲得によるものが主な要因です。財務キャッシュフローは7億4600万円の使用となり、こちらは配当金の支払いによるものが主な要因でございます。

## 経営指標：安定性・効率性

(単位：百万円)

### 自己資本比率



### ROE (自己資本利益率)



次のページは、安定性、効率性の指標です。総資産が2,144億7,500万円、自己資本が776億1,700万円となり、自己資本比率は36.2%となりました。3月末と比べると、わずかですが改善しております。ROEは、3月末で10.9%でした。期末時点では6.4%を予想しております。当期純利益率は、ほぼ横ばいの2.7%となり、財務レバレッジは2.8倍と、ちょっと広がってますね。総資産回転率1.4倍と、やや低下しております。

## 2020年3月期 通期業績予想（2019年5月14日公表）

(単位：百万円)

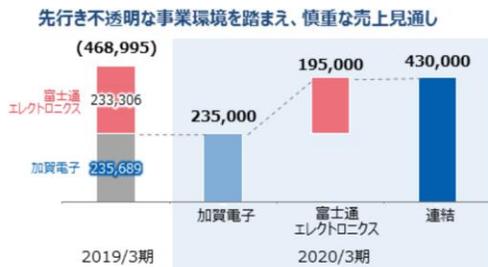
	2019/3期 実績	2020/3期 予想	前年比
売上高	292,779	430,000	46.9%
売上総利益	35,546	46,500	30.8%
同利益率 (%)	12.1%	10.8%	
販売費及び一般管理費	27,976	39,500	41.2%
営業利益	7,570	7,000	▲7.5%
経常利益	7,859	7,000	▲10.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,014	5,000	▲37.6%
EPS（1株当たり当期純利益）	292.07	182.17	
ROE	10.9	6.4	-

 加賀電子株式会社

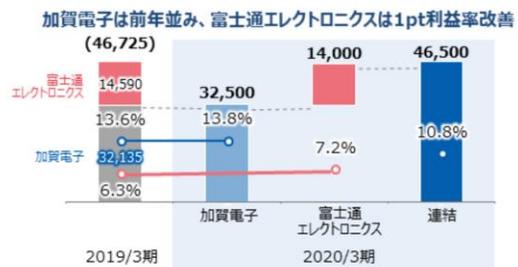
最後に、2020年3月期の業績予想ですが、売上高は4,300億円、営業利益は70億円、経常利益は70億円、親会社株主に帰属する当期純利益は50億円と、期初予想から据え置きとしております。今後の経営環境を慎重に見極めることとし据え置きとさせていただきます。

## 2020年3月期業績予想 富士通エレクトロニクス グループ会社化の影響

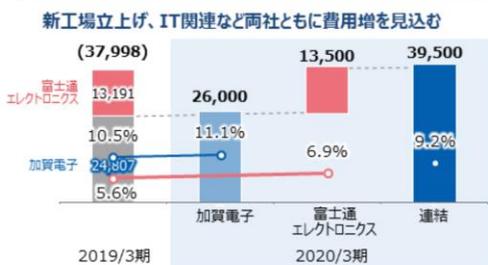
### 売上高



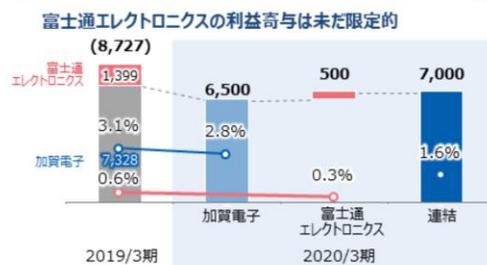
### 売上総利益 / 売上総利益率



### 販管費 / 販管費率



### 営業利益 / 営業利益率

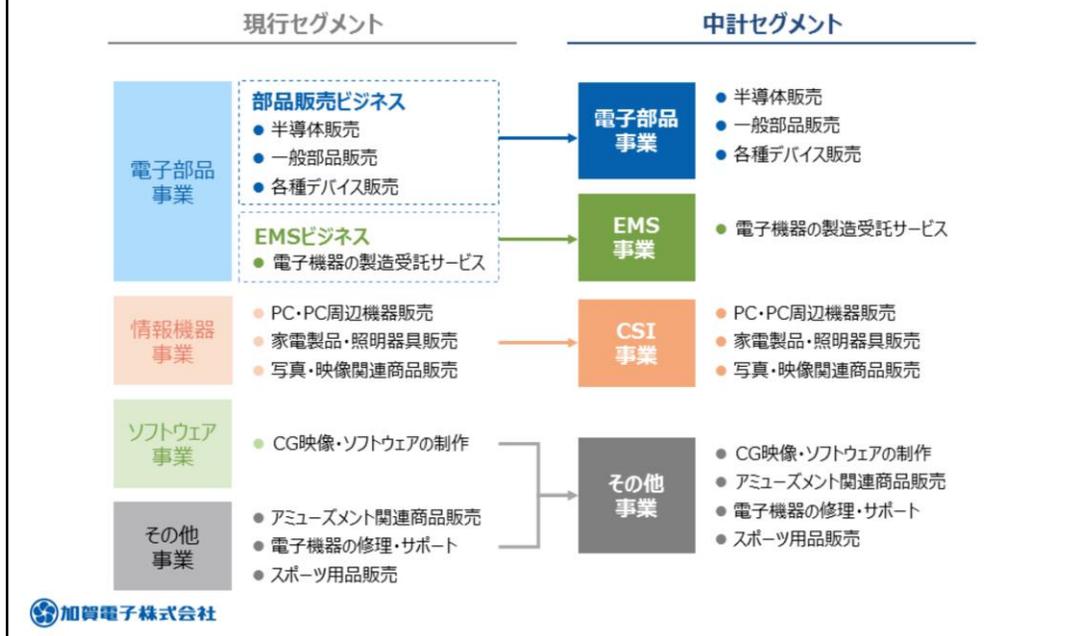


その理由は次のページになります。富士通エレクトロニクス分をどのくらい見込んでいるかになります。売上高4,300億円の見込みのうち、1,950億円が富士通エレクトロニクス分。加賀電子分は、2,350億円を予想しております。売上総利益は、総額465億円のうち、富士通エレクトロニクス分は140億円、加賀電子が325億円となっております。販管費は、395億円のうち、富士通部分が135億円、加賀電子分が260億円となっております。営業利益は、70億円のうち富士通部分が5億円、加賀電子分が65億円という分解になります。

富士通エレクトロニクス分が大きく減少している理由は、前回の決算説明会でもお話をさせていただきましたが、サイプレスというアメリカの半導体メーカーの商権について継続交渉をしておりましたが、最終的に、この10月初をもって代理店権が解消されました。上期はその収益が寄与しましたが、下期以降は全くなくなることとなりますので、下期は富士通エレクトロニクスにつきましては、赤字が、計上される予定となります。

## <参考>新中計スタートに伴うセグメント開示に関して

制度開示としては現行セグメントを継続するとともに、新中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う



次のページ以降は、参考資料として添付している資料です。今期より開始している中期経営計画2021の中において新しい事業区別として、電子部品事業、EMS事業、CSI事業、その他事業の4分類に分けさせていただいております。22ページにはその区分を記載しております。

## <参考>加賀電子及びグループ各社のセグメント領域

	電子部品事業	EMS事業	CSI事業	その他事業
<b>加賀電子株式会社</b>				
電子事業部	●	●	(●)	●
EMS事業部		●		
通信事業部	●	●	●	(●)
特機事業部	●	●	(●)	●
特販事業部	●	●	(●)	●
営業推進事業部	●			
<b>主な国内グループ会社</b>				
加賀テック株式会社	●	(●)	(●)	(●)
加賀デバイス株式会社	●	●	●	●
加賀ソルネット株式会社			●	
エー・ディー・デバイス株式会社	●			
加賀マイクロソリューション株式会社		●	(●)	●
株式会社デジタル・メディア・ラボ				●
加賀スポーツ株式会社				●
加賀アミューズメント株式会社				●
加賀テクノサービス株式会社			●	
富士通エレクトロニクス株式会社	●			
<b>主な海外グループ会社</b>				
加賀沢山電子（蘇州）有限公司		●		
加賀電子（上海）有限公司	(●)	●		
港加賀電子（深圳）有限公司		●		
KAGA (H.K.) ELECTRONICS LIMITED		●		
KAGA DEVICES (H.K.) LIMITED	●			
KAGA (TAIWAN) ELECTRONICS CO., LTD	●	(●)		
KAGA ELECTRONICS (THAILAND) COMPANY LIMITED	(●)	●		
KAGA COMPONENTS (MALAYSIA) SDN.BHD.		●		
KAGA ELECTRONICS INDONESIA, PT	●	●		
KAGA ELECTRONICS (VIETNAM) CO., LTD.		●		
KAGA (SINGAPORE) ELECTRONICS PTE LTD	●	(●)		(●)
KAGA ELECTRONICS (USA) INC.	●	●		
TAXAN MEXICO S.A. de C.V.		●		
KD TEC s.r.o.	●	●		

 加賀電子株式会社

次のページは、それぞれのグループの中で、どの部門がどの事業を行っているのかを一覧にしております。

<参考>2020年3月期第2四半期 中計セグメント別業績（6ヶ月累計）

(単位：百万円)

		2019/3期 2Q実績	2020/3期 2Q実績	前年比
電子部品	売上高	44,216	156,803	254.6%
	セグメント利益	899	2,127	136.6%
EMS	売上高	43,031	46,945	9.1%
	セグメント利益	1,624	2,100	29.3%
CSI	売上高	21,143	19,968	▲5.6%
	セグメント利益	864	618	▲28.5%
その他	売上高	6,991	6,912	▲1.1%
	セグメント利益	310	316	2.1%
合計	売上高	115,383	230,630	99.9%
	セグメント利益	3,772	5,239	38.9%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、  
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。



24、25ページは、それぞれの新セグメント別に、この第2四半期を単純集計した数値になっております。

<参考>2020年3月期第2四半期 中計セグメント別業績（直近3ヶ月）

(単位：百万円)

		2019/3期 2Q実績	2020/3期 2Q実績	前年比
電子部品	売上高	23,208	84,698	265.0%
	セグメント利益	635	1,651	160.0%
EMS	売上高	21,927	22,425	2.3%
	セグメント利益	786	830	5.6%
CSI	売上高	10,725	9,842	▲8.2%
	セグメント利益	547	429	▲21.5%
その他	売上高	4,028	4,099	1.8%
	セグメント利益	279	430	54.2%
合計	売上高	59,889	121,066	102.1%
	セグメント利益	2,282	3,389	48.5%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、  
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。



24、25ページは、それぞれの新セグメント別に、この第2四半期を単純集計した数値になっております。

<参考>2020年3月期 中計セグメント別通期業績予想

(単位：百万円)

		2019/3期 実績	2020/3期 予想	前年比
電子部品	売上高	145,042	282,000	94.4%
	セグメント利益	2,278	2,200	▲3.4%
EMS	売上高	89,481	95,000	6.2%
	セグメント利益	2,667	2,800	5.0%
CSI	売上高	44,344	40,000	▲9.8%
	セグメント利益	1,906	1,500	▲21.3%
その他	売上高	13,912	13,000	▲6.6%
	セグメント利益	554	500	▲9.7%
合計	売上高	292,779	430,000	46.9%
	セグメント利益	7,570	7,000	▲7.5%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、  
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

## 為替レート

	2019/3期 2Q実績 (円)	2020/3期 2Q実績 (円)	(参考、半期ベース) 1%変動による影響額(百万円)		2020/3期 前提 (円)
			売上高	経常利益	
米国ドル	110.26	108.63	927	20	110.00
タイバーツ	3.40	3.49	124	7	3.40
人民元	17.09	16.20	103	4	17.00
香港ドル	14.05	13.86	113	2	14.00

それから最後、27ページに、為替レートとして、米ドル、タイバーツ、人民元、香港ドルの4通貨につきまして、1%変動した場合の売上高、経常利益への影響を記載した一覧表をつけております。

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報室

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

以上、第2四半期の実績につきましてご説明申し上げました。ご清聴ありがとうございました。